

共通認識及び検討事項(案)



令和5年3月30日
京丹後市教育委員会事務局・市長公室

・本市における教育・人材育成に係る問題意識を共有するとともに、こうしたことを基に、どのような人材や教育が必要なのかについて方向性を導出するとともに、その具体化を図っていくこととする。

- 地方部という物理的な制約も相まって、活用できる教育・人材育成の資源は限定的であり、これまででは、献身的な教員をはじめとした関係者の不断の努力に大きく依存してきたことは否めない。
- このため、各地の教育現場にもみられるように、年功序列や経験主義に依るところも少なくなく、社会の変化に適切に対応していくことは容易ではなかった。
- 一方で、本市がこれまで蓄積してきた固有の地域資源が豊富にあるにもかかわらず、そうした資源を社会の変化に織り込みながら教育・人材育成に十分に活用できているとは必ずしも言えない現状にある。
- 地方部においては、教育・人材育成がまちづくりに直結するものであり、本市も例外ではなく、如何に社会や地域に開かれた教育・人材育成を行っていくかが重要な課題である。
- 当事者である子供目線に立ち、デジタルを活用しつつ、域内外の多様な資源を取り込むなど、既存の制度や前例主義にとらわれることなく、新たな教育・人材育成の姿とその実現のための具体策を、我が国の大部分を占める地方部たる本市から描いていくことが不可欠である。



- 本市が目指す教育・人材育成像の方向性を、丹後ちりめんに準え、経糸と緯糸で捉え直し、当該方向性を地域全体で共有し、本市の教育・人材育成の経糸と緯糸を紡いでいくこととする。

緯糸の
考え方

【変遷するもの】

グローバル化といった社会の大きな趨勢と、それに対応する教育・人材育成の新たな施策を指す。

経糸の
考え方

【不易的なもの】

社会や教育現場の昨今の変化の中にあっても大きく変わらない地域固有の価値を指す。

■ 人材像

世界を舞台に活躍することができるとともに、地域に還ったり、域外から地域に関わったりすることも通じて、未来を創っていく人材

- ✓ 丹後人や日本人として世界で渡り合うことができる人材
- ✓ 地域の良さを域外に発信することができる人材

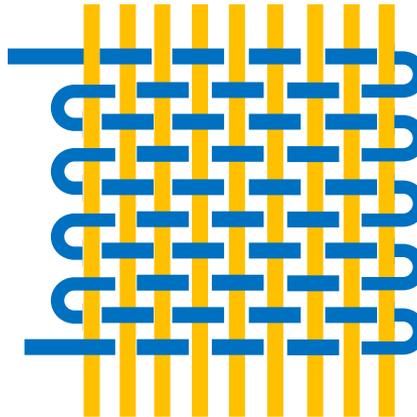
- ✓ 地域の良さを理解し、地域に戻ってくることができる人材
- ✓ 地域の外にいても、持続的に地域にかかわることができる人材

■ 教育像

テクノロジーの活用によりSoicety5.0に対応しつつ、京丹後市固有の伝統・文化・暮らし等の地域資源を通じて更なる付加価値を共創していく教育

- ✓ GIGAスクール構想を基盤としつつ、STEAM教育や英語教育、アントレプレナーシップ教育等のSociety5.0に対応した教育

- ✓ 地域固有の伝統・文化・暮らしや特筆すべき技術等のこれまで地域で培われてきた地域資源を活用した教育



- ・ 本会議においては、本市が目指す教育・人材育成像の大きな方向性に沿って、具体的に何が必要で何を行うのかということ意識して議論を進める。
- ・ その際、当事者である子供の視点や本市独自の地域性の観点を常に踏まえるものとし、「京丹後市だからできる教育・人材育成」のための具体的な施策を検討する。

1. 地域資源を織り込んだSociety5.0に対応する教育内容

- ・ STEAM教育やアントレプレナーシップ教育、グローバル人材育成、デジタル人材育成等の教育課程における体系的な再構築
- ・ 上記のSociety5.0に対応する教育と丹後学等の地域に根差した教育を融合するための具体的な方策

2. 教育効果と地域の付加価値を最大化するシームレスな制度の在り方

- ・ デジタルを活用することにより、ヒト・モノ・カネ・情報・コミュニティ等の教育資源の制約を乗り越えるための制度の在り方【遠隔教育等】
- ・ これからの社会に求められる人材育成に向けて、就学前教育段階から中等教育段階まで切れ目ない教育を行うための制度の在り方【中高の連携の在り方等】

3. 地域・産業界と連携した教育・人材育成の在り方

- ・ 上記1. 及び2. の実現に向け、地元住民をはじめとした域内外の企業や教育関係者等、地域全体を包含するような複層的・重層的なネットワーク構築の在り方【産官学コンソーシアムの形成等】